

# キーワードでひもとく くずまきの魅力

地域の資源を生かした成長戦略で、ひととき個性を放つ葛巻町。中でも21世紀の地球が抱える課題「食糧・環境・エネルギー」分野では、全国でもいち早く解決に向けたビジョンを打ち出し、政策を実行してきた。スローガンに掲げるミルク、ワイン、クリーンエネルギーのほか、移住定住や子育て支援に関するサポートも充実。人にも環境にも優しい暮らしを求めて、若い世代を中心に移住地として人気が高まっている。



Kuzumaki

## クリーンエネルギー

葛巻町の電力自給率は160%。町内では風と太陽の力で約1万5000世帯分の電気をつくっている。CO2排出量は年間で3万1100t削減。クリーンエネルギー先進地として国内外から注目されている。風力発電は袖山高原と上外川高原に合わせて15基ある。太陽光発電は小中学校や町の関連施設などに整備され、新エネルギーの啓発にも役立っている。バイオマスエネルギーは、町内の牧場から排出される牛ふんからエネルギーをつくる「畜ふんバイオマスシステム」に取り組んでいる。製材過程で発生する樹皮を利用した木質ペレットは燃やしても有害物質が出ず、土に戻っても安全な自然素材で、町内の施設の暖房設備燃料などとして普及している。そのほか、風力と太陽光、小水力と太陽光などのハイブリッド方式など、町内各地でさまざまなクリーンエネルギーシステムを見ることができる。



上外川高原

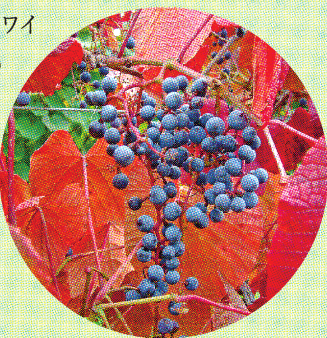
## ミルク

山間高冷地の牧場で乳牛約9000頭を育てている「東北一の酪農郷」。町の酪農の歴史は120年余りになる。上づくりから始まり、健康的な環境でのびのびと育った乳牛からしぼった新鮮なミルクは、自然そのままのおいしさ。くずまき高原牧場では、乳製品を販売しているほか、乳しぼりや子牛の世話などを体験できる。



## ワイン

地元産の山ぶどうを原材料に使った「くずまきワイン」。コンクールで多数の受賞歴を誇る。山ぶどうは栄養価が高いことで知られ、県北では古くから「さんとお見舞い」(産後の女性のお見舞い)にも使われてきたほど。町は1986(昭和61)年、第三セクター・葛巻高原食品加工株式会社を設立し、本格的にワインの醸造を始めた。



## くずまきテレビ

2010年に町内各世帯へ光ファイバーを引いて、ケーブルテレビ化による地上デジタル放送受信環境と高速ブロードバンド利用環境を整備。併せて、自主放送「くずまきテレビ」を開局し、岩手大学放送研究部の学生をキャスターとしたニュース形式の番組放送、データ放送による生活情報や行政情報の発信、町議会中継放送などを行っている。取材・編集した番組は、毎週土曜日に更新している。



## バイオリン教室

夢のあるまちづくりの一つとして、町内の保育園、児童館に通う年長児を対象にバイオリンを学ぶ時間を設け、音楽に触れる機会を増やしている。町はバイオリンを全員に貸し出し、自宅に持ち帰って練習することも認めている。10月に町内で開かれる音楽会をはじめ、町内のイベントなどで練習の成果を披露する。



## IJUターン

葛巻町に移住、定住したい人に対して、町はさまざまな支援策を用意している。遊休農地などの情報を提供して土地取得を助成したり、若者定住のために奨励金の支給や家賃補助を実施。単身者向け、家族向けの定住促進住宅や譲渡型の子育て支援住宅の整備も進めている。



## くずまき山村留学制度

町が県立葛巻高等学校(全日制普通科定員80人)の入学生確保に向けて2014年度に創設し、全国から毎年5人程度を募集。希望者は葛巻高の特別入学志願承認を受けた上で入試を受ける。留学生は自然体験や酪農体験、イベント事業体験などから希望するメニューを選んで研修を受ける。くずまき高原牧場の施設を学生寮として生活し、登下校には町がスクールバスを運行する。

